

デザインコンペで入賞した

## 縁起のいい貯金豚

縁起のいい貯金「箱」ならぬ貯金「豚」と名付けられたこの商品。日本人ならば誰もが縁起の良さを感ずる5円玉と50円玉を貯めるための貯金グッズである。このかわいらしいグッズを製作したのは、富山県高岡市にある老舗の銅・錫製品製造会社の株式会社能作。同



能作 貯金豚 きんとん・ぎんとん  
 きんとん：5,005円(税込) きんとん：7,007円(税込)  
 問い合わせ：株式会社能作 <http://www.nousaku.co.jp/>  
 ※硬貨は商品に含まれません

社代表取締役の能作克治さんにお話をうかがった。「わたくしどもの会社は、大正5(1916)年に、高岡の地に400年伝わる鑄造技術を用いて高岡銅器の製造を開始しました。鑄造とは、溶かした金属を鑄型に流し込み、冷やすこと

で目的の形状にする製造法です。創業当時は仏具や茶道具、花器などを製造してきましたが、10年ほど前から、テーブルウェアやインテリア雑貨など、自社商品の開発を始めました。テーマは、素材とデザイン。この縁起のいい貯金豚「きんとん」と「ぎんとん」も、そういった背景から製品化した商品です」

縁起物といえば祭礼や縁日など、寺社との縁が深い。まさに、仏具を製造していた能作にぴったりの商品だ。商品開発のきっかけはどのような経緯だったのか。

「東京ミッドタウンが毎年開催しているデザインコンペにTokyo Midtown Awardがあるのですが、縁起のいい貯金豚は2011年度のグランプリ受賞作品なのです。この作品を制作されたのは、デザイナーの藤本聖二さん。彼から直接、わたくしどもの会社で具現化できないかという依頼をいただきました。とてもおもしろいデザインですし、弊社の製品コンセプトにも合っているということで、製品化が実現しました」

「きんとん」と「ぎんとん」の2種類がリリースされているが、値段が違うのはなぜだろう。「まず、藤本さんの素材に対する

こだわりがありました。硬貨というものは、使われていくうちに変色しますよね。なので素材は硬貨と同じものを使いたいということでした。5円玉は真鍮、50円玉は白銅です。このうち、白銅の鑄造というのが、じつは非常に難しいのです。金属の溶解もたいへんで、固まったあとも商品として出荷できる形にならないものが出てしまいます。そういったところが、価格差となっているのです」

「デザイングッズということで、シンプルなかにも作家のこだわりがあるようだ。」  
 「表面の風合いにも、藤本さんのこだわりがあります。鑄造したての表面というのは、あまりきれいではないので、研磨が必要ですが、磨きすぎてピカピカというのも趣がない。どのあたりまで磨くのかということで、いくつかの試作のなかで、この色合いに決定しました」

見るからに縁起のいい貯金豚。きんとんは最大で250円、ぎんとんは最大2200円が貯められる。お金が貯まったあとは、インテリアオブジェやペーパーウェイトとしても使えるだろう。新たな年にげんを担いで、部屋に飾ってみてはいかがだろう。